

## 有機合成化学の若い力 -ものづくりの化学-

### Synthetic Organic Chemistry: Young Challengers

宮岡 宏明<sup>1</sup>, 原口 一広<sup>2</sup>, 高須 清誠<sup>3</sup>(<sup>1</sup>東京薬大薬,<sup>2</sup>昭和大薬,<sup>3</sup>東北大院薬)

「ものづくり」は薬学の原点であり、有機合成化学はその一翼を担う領域として発展を続けてきました。これからの有機合成化学は、これまでに発展してきた分野の更なる展開と共に、ポストゲノム時代を視野に入れた創薬化学、コンビナトリアルケミストリー、グリーンケミストリーなどの領域の発展が求められています。このような、有機合成化学の発展を担うのは、若き研究者達であります。本シンポジウムは、有機合成化学並びに創薬化学の第一線で優れた成果を挙げている若手研究者を招待して、最新の成果と今後の展望について自由に発表して頂き、明日を拓く有機合成化学について聴衆と共に討論し、互いに切磋琢磨することを目的としています。

同様の趣意に基づいたシンポジウムが第 121 年会（札幌）で始めて開催され、今回で第 5 回目となりました。本シンポジウムは、有機化学系の若手研究者にとって年会恒例の討論会として定着した感があります。今回はサブタイトルを「ものづくりの化学」とし、生物活性などの機能性をもつ物質（医薬品や天然物など）の合成に焦点を当て、大学および製薬関連企業から 7 人の新進気鋭の研究者をシンポジストに招き、最先端の「ものづくり」について討論したいと考えています。